

環境福祉学会

News Letter

ニューズレター ● September 2006



目次

| | |
|----------------------------|---|
| 国際福祉機器展H. C. R. 2006 | 1 |
| 第2回年次大会のご案内 | 1 |
| 炭谷茂アドバイザーのご提案 | 2 |
| 事務局だより・組織及び役員一覧 | 4 |

環境福祉学会 事務局 東京都港区南麻布5-16-6 コウセイ広尾3F
創造学園大学 東京本部内
TEL. 03-3447-3321 FAX. 03-3447-3681
http://www.kankyofukushi.jp
E-mail: info@kankyofukushi.jp

第33回 国際福祉機器展H. C. R. 2006

～環境福祉学会シンポジウム～

主催：全国社会福祉協議会
保健福祉広報協会
後援：厚生労働省/総務省/他

国際福祉機器展H. C. R. 2006は、世界の福祉機器に関する情報発信とともに、適切な福祉機器の選び方・使い方の知識の普及、さらに福祉機器の利用者、メーカー、福祉サービス従事者達の国際交流場として開催されます。環境福祉学会では「環境福祉ビジネスの展望」というテーマで、シンポジウムを開催しますので、会員の皆様のご参加を心よりお待ちしております。

テーマ：「環境福祉ビジネスの展望」 出展社数：約600社
日時：2006年9月27日(水) 13:30～15:30 来場者数：20万人(予定)
会場：東京ビッグサイト605～608(会議棟6F) 参加費：無料

コーディネーター：炭谷 茂氏 (環境省顧問 前環境事務次官)
パネリスト：柴田 いずみ氏 (株式会社ヨコタ東北 環境教育チームリーダー)
石谷 由里氏 (特定非営利活動法人 みどりの家 理事長)
司 会：小池 大哲氏 (創造学園大学 学長)

第2回年次大会(総会)のご案内

特別講演：富野 由悠季
(アニメーション作家・監督)
基調講演：炭谷 茂
(環境省顧問/前環境事務次官)

環境福祉学会が発足して本年の9月で、2周年を迎えようとしております。会員数も380名となっております。昨年、第1回年次大会が、岡山県倉敷市の川崎医療福祉大学で開催され、全国から多数の会員の皆様の参加をいただき、大会テーマであります「環境福祉の誕生」にふさわしい大変意義ある大会となりました。

第2回年次大会は、本年10月29日(日)、群馬県高崎市の創造学園大学におきまして、「環境福祉の発見」をテーマに開催されます。東京駅から上越・長野新幹線で50分で着きますので、ぜひ会員の皆様方の積極的なご参加、ご支援をよろしくお願い申し上げます。

テーマ：「環境福祉の発見」
日時：2006年10月29日(日)
会場：創造学園大学(群馬県高崎)
内容：一般研究発表、総会、特別講演、
基調講演、パネルディスカッション、
懇親会、etc
費用：大会参加費 5,000円(昼食代含む)
懇親会参加費 4,000円



特別講演：富野由悠季
(アニメーション作家・監督)



会場：創造学園大学
(下滝キャンパス)

提 案 ・ 環境福祉コンソーシアム計画
・ 環境福祉企業部会の設置について

環境福祉学会アドバイザー
環境省顧問 前環境事務次官

炭谷 茂

今回の事例研究会で本学会のアドバイザー炭谷茂氏から次のような提案がなされました。



最初のご提案ですが、「環境福祉コンソーシアム計画」というものをつくってみました。まず趣旨ですけれども、環境福祉学会はいろいろな活動があります。活動としては、いろいろな障害をもった方、高齢者、子供、または若年の失業者の支援を目的としております。それらの方々が何らかのかたちで社会で自立したり、生きがいを持って活動していくことが必要です。

そういう場合に役立つのが、リサイクルの仕事とか、公園等の美化活動とか、有機農法とか、それから森林の間伐とか、園芸療法とか花木の栽培です。またいろいろな自然エネルギーに利用することも大切です。それから児童の自然との触れ合いなど、いろいろとありますが、それらをうまく結びつけることが重要ではないかと思うのです。

一つ例をあげますと、最近、有機農法がよく行われていますが、これは大半がうまくいきません。なぜかという、たとえば食堂から残飯が出てきます。いろいろな工夫をして、残飯からコンポスト（堆肥）を作ったり、肥料を作ったりします。そしてそれをどこかの農家が使います。農家では、有機農法でおいしいトマトやピーマンやキュウリを作り、そしてそれを消費者に買ってもらいます。そういう一連のサイクルが必要なんです。有機農法で野菜を作るところは、そこに独自の工夫があるのですが、その間のつながりができていないのです。農家は残飯のコンポストを買ってくれませんが、仮にそれでは一応使ってあげましようといつて、農家は使ってくれたとしても、その野菜を売るところがないのです。これらを一つの流れとしてやっていかなければなりません。



時代を担う環境福祉学会の展望を話す炭谷氏

また、環境事業に貢献してくれる、60過ぎの団塊の世代の高齢者の方や障害者の方、またニートの20代、30代で仕事ができない人たちに入っていただく。そういうものをうまく結びつけることが必要なのではないかと思います。

しかし、その輪が繋がっていないのです。誰もみんなすばらしい発想を持っているのですが、一つのシステムに構成されていないので、うまくいっていないのではないかと感じます。成功している例としては、ヨコタ東北のリサイクル事業がありますが、そこではスーパーとリサイクル企業と働く障害者、そしてリサイクル製品を購入する消費者の流れがうまくいっています。しかし、なかなかこのようなサイクルを作れないところに、そもそも問題があるのです。ですから、この環境福祉学会でその仕組みを組み立てられれば、これが仕事としてうまくいくのではないのでしょうか。

実際に働こうとしている高齢者、障害者、若年の失業者、実際にリサイクルを仕事とする業者、また、それを利用しようとしている流通業者が、うまく結ばば、すべてが経済的に成り立って自立するとか、商売になるということだと思います。

私自身の考え方として、環境福祉コンソーシアム協議会（コンソーシアムという一つの仲間づくり）というものの回路を作ってやったらどうかと思うのます。

そして、その会の中心になる人はやはり専属

の職業としてやっていただける「環境福祉コーディネーター」という資格の人が出てくれば良いと思います。

そして、ソーシャルファームの必要性です。ソーシャルファームはどういうことかという、目的は障害者や高齢者の生きがい、また、リサイクルというものを進めるとか、有機農法を進めるような公の社会的な目的を持ったファーム(会社)です。これこそソーシャルですね。ファームというのは、ビジネス的な一般の企業と同じような手法です。役所や税金でやるような事業ではなく経済活動です。

こういうものは日本にまだありませんので、単位としては市町村くらいがいいのかと思っていますが、そういう市町村で意欲のある企業、意欲のある障害者の団体や高齢者の団体、地元の消費者、生活者の集まり、そういうものを集めて、その中心になる人にはぜひ新しく環境福祉をこれから勉強していただきたいのです。EU20ヶ国には、ソーシャルファームが10,000社ありますが、人口比で言いますと日本にも200箇所位あってもよいと思います。今後すぐには難しいと思いますが、3年間しっかり勉強して、日本に1,000社、2,000社、うまく育ててくればよいと思っています。

もう一つの提案は、「環境福祉企業部会」の設置です。環境福祉学会はできて1年ちょっと経ち、いろいろな方々からご意見を頂きました。企業の方々は何か環境福祉というものの製品やユニバーサル・エコ商品を作ってみたいと考えております。

私の目から見ると、こういう面が不十分だということで、いろいろ注文はつけましたが、いずれにしても「環境と福祉の向上」というものを目指していこうという商品づくりをしている面が、環境福祉学会が目指す面と同一方向だと思いました。

このような環境福祉製品やエコ・ユニバーサル商品の開発は時代の最先端をいく企業であれば、ほとんどの企業がいま考えているところで

す。そういうものを開発しなければいけないのです。

それから私は、環境福祉事業と言っているのですが、例えば、神戸市で障害者の方々がリサイクル工場で働いている事業ですが、まさに環境もよくなり、障害者の方々の生活もできる。神戸市の場合、障害者の方々が10万円程度の収入を得ています。それと障害年金を足せば20万円近くになりますから、普通の生活はできるということです。これを環境福祉事業と呼んでいます。

このように環境福祉というのは社会的な事業もたくさんあります。環境福祉のまちづくりを行うとか、それから少し大きくなりますが、環境福祉国家をつくろうとか、そういう大きな広域的な目的もあるのですが、企業的、産業的な面でもたくさんあるのです。それはやはり実際につくっていかなくてははいけません。そのためにはやはり企業の方々の沢山の参加を得て、特別のこういう部会をつくったらどうだろうかというご提案をいただきました。

そこで部会長とか、トップになる人はやはり実際に経営を知っている人でないといけませんし、もう一つ作業面や国際的なことを考える人と、学術経験者の助言を得ていかないとはいけません。しかし、事務的なところがありますから、申し訳ないのですけれども、創造学園大学のほうでまた事務をやっていただければと思います。私はこの部会に1000社位参加して頂ければ、日本を変えられるのではないかと思うのです。

善は急げですから、できれば来月くらいからスタートしてみたいというのが私の提案でございます。〈講演録より〉

〈終わり〉

大変遅くなりましたが、ニュースレター4号が発刊の運びとなりました。

第5回事例研究会（4月9日 14:00～16:00）には、たくさんの参加者を得て盛大に開催されました。今回の事例研究会では、『私が伝える環境福祉』を目標に、NPO法人少年会議所理事長、安野侑志さんに「よく生きるためによく遊ぶ」と題して発表していただきましたが、紙芝居の魅力に引き込まれてしまいました。会場に昔-そのままに自転車に紙芝居舞台をつけて持ち込み、紙芝居の中で、如何に子供たちに身近な問題として環境問題を捉えさせるかを盛り込んだ発表でした。夕焼けを背景に紙芝居を演じ、その合間に「水飴」や、「カタヌキ遊び」などの昔の子供たちと同じような体験をさせてもらい、立ち見もでるくらいの超満員の会場の中では、昔を大変懐かしく思い出された人や非常に新鮮な驚きで受け止めた学生達もいました。

さて、10月29日（日）創造学園大学（群馬県高崎市）で、『環境福祉の発見』をテーマに第2回年次大会が開催されます。是非会員の皆様の積極的参加、ご支援をよろしくお願い申し上げます。



■ 環境福祉学会組織及び役員一覧

| | | | |
|--------|---|-------|----------------------------|
| 会 長 | ： | 江草 安彦 | 社会福祉法人旭川荘理事長／川崎医療福祉大学名誉学長 |
| 副 会 長 | ： | 鴨下 重彦 | 社会福祉法人賛育会 賛育会病院院長／東京大学名誉教授 |
| | | 伊藤 達雄 | 前名古屋産業大学学長 |
| | | 小池 大哲 | 創造学園大学学長 |
| 理 事 | ： | 松寿 庶 | 社会福祉法人全国社会福祉協議会常務理事 |
| | | 波田 幸夫 | 環境新聞社社長／社団法人日本専門新聞協会理事長 |
| | | 長田 逸平 | 日本経済団体連合会上席参事 |
| | | 藤田 八暉 | 久留米大学教授 |
| | | 土井 康晴 | 社団法人生活福祉研究機構専務理事 |
| | | 泉谷 直木 | アサヒビール株式会社常務取締役 |
| | | 安川 緑 | 金沢大学大学院医学系研究科助教授 |
| | | 児玉 剛則 | 社団法人環境創造研究センター専務理事 |
| | | 寺田 清美 | 東京成徳短期大学助教授 |
| 監 事 | ： | 永井 伸一 | 獨協中学・高等学校校長／獨協医科大学名誉教授 |
| | | 平野 寛 | 日本柔整専門学校校長／杏林大学名誉教授 |
| アドバイザー | ： | 炭谷 茂 | 環境省顧問／前環境事務次官 |
| 事務局 | ： | 小内 栄 | 創造学園大学事務長 |
| | | 小峰 且也 | 環境新聞社取締役企画事業部長 |
| | | 酒井 剛 | 環境新聞社企画事業本部課長 |
| | | 王 豊 | 創造学園大学東京本部 |
| | | 眞口 啓介 | 創造学園大学東京本部 |

